

5月22日の米イージス艦ミリオスの横須賀基地への増配備を受けて、以下のコメントを  
発表しました。

2018年5月22日

5月22日の米イージス駆逐艦ミリオスの横須賀基地への配備に対するコメント

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表 弁護士 呉東 正彦

米海軍は5月18日、イージス駆逐艦ミリオスを横須賀に前方配備し、21日に到着  
すると発表し、ミリオスは1日遅れで本日、米海軍横須賀基地に入港した。

しかし、この時期のイージス駆逐艦ミリオスの横須賀への前方配備は、米朝会談の直  
前でもあり、昨今の朝鮮半島情勢緩和にも逆行し、対話ムードに水をさしかねない。

またこれによって、横須賀を母港とする第7艦隊は14隻体制となるものと思われ、  
米軍基地と配備艦船の横須賀への負担（住宅、犯罪等）もさらに増加する。

さらに昨年4件連続して発生したイージス艦の事故の直後であり、米海軍からも、  
連続事故の原因は①前進配備のため、訓練や修理より作戦配備が優先されるサイクル  
②各方面からの作戦任務の著しい増加による作戦配備期間の長期化、  
③艦船数増加、老朽化、修理能力不足による修理期間の長期化とキャンセル、整備不調  
④艦船の定員不足と一時的配置転換等による人手不足と、兵員の過労の常態化と軽視、  
⑤上記のための訓練時間の不足、航海海域の資格認証の失効、未取得の常態化、  
との報告書が出されており、今後の事故防止のためにも、横須賀基地の修理能力等に  
応じた隻数の維持減少と、修理作業の徹底がまず行われねばならないし、米海軍からは戦  
闘資格認証されていない兵員が多数いた現状の改善についての報告公表もない。

私達は、市民の安全を確保する立場から、昨今の朝鮮半島情勢緩和にも逆行し、母港  
艦船の増加による地域社会への負担も増加し、取られるべき事故防止対策に逆行するミ  
リオスの配備について、国や米海軍には撤回を、市にはそれを申し入れることを強く求  
める。